

## 1. 本町における災害（事故）リスクとその対策は

昭和の時代は戦争で莫大な犠牲を払い、平成の時代は戦争がなかったものの、全国各地で大きな自然災害が発生し、多くの尊い命が失われた。令和に入り自然災害こそ起こっていないものの、交通事故による犠牲者の報道が相次いでいる。いずれの事故もドライバーの過失や高齢者の運転ミスによるものが多く、思いもよらない形で犠牲になってしまうというケースがほとんどのように見受けられる。

このような中で、山も海もない本町は、地震による建造物の倒壊は考えられるものの、がけ崩れや津波の心配は考えにくく、自然災害のリスクは少ない町だと考える。また、自転車事故の発生件数に対する構成率は、県下でワーストワンとのことだが、交通死亡事故はゼロという最近の状況の中で、危機意識が薄いのが一般的な開成町民ではないか。

しかし、町のトップは町民意識に関係なく、住民の安全安心を担保するため、常に危機意識を持って有事に対する備えを考えておく必要があると考える。

そこで本町で町民の命を脅かす最も高いリスクは何と考え、また、その対策をどのように考えているのか町の考えを問う。